

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500235		
法人名	医療法人 偕行会		
事業所名	認知症高齢者グループホームじょうさい 二丁目		
所在地	愛知県名古屋市中村区北畑町4丁目1番地		
自己評価作成日	令和4年10月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2390500235-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは小規模多機能事業所と併設して運営していることで、小規模多機能からグループホームに生活場所を移行した方も多く、利用者や家族の安心感にもつながっている。運営母体が医療機関でもあることで、医療面での充実した支援も当ホームの特徴でもある。常勤の看護職員の配置を行いながら、医療依存度の高い方への支援も可能であることで、利用者が住み慣れたホームでの生活を継続することができる効果にもつながっている。協力医や看護師との連携を深めながら、利用者の看取り支援も行われており、最期までホームで過ごすことができる生活環境が整えられている。その一方で、日常生活においても、職員間でレクリエーションの取り組みが行われており、利用者の身体機能の維持につながるような支援も含め、利用者の生活が単調にならないような取り組みを継続している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念はあるが、法人理念ほど浸透はしていない。しかし、日々支援する中では理念に沿った援助を行っている	運営法人の基本理念を職員の支援の基本に、日常的に職員間で理念を振り返る機会がつけられている。職員の名札の裏面に理念を記載したり、職員に「クレドカード」を配布する取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナにより地域との交流が難しい	現状、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、敷地内に運営法人の関連の医療機関が開設されていることで、例年は、ホームに地域の方が訪問する機会がつけられている。また、ホームの建物内に地域の方との交流スペースもつけられている。	地域の方との交流が困難な状況が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、交流スペースの活用等、可能範囲での交流の再開に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を地域の方々と行えていないが、同一敷地内の病院などと連携し同一敷地内にグループホームがある事への発信をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	文書での対応となっている	会議については、書面による実施が続いており、関係者に書面を通じてホームの運営状況等の報告が行われている。また、併設事業所と連携しながら実施しており、会議の関係者にホーム全体の取り組みを知ってもらう機会につなげている。	会議が長期にわたり書面による実施が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	いきいき支援センターと連絡を取り合いながら協力体制をとっている	市担当部署との情報交換等については、関連事業所とも連携しながら行われており、ホームの運営への反映につなげている。また、例年は、ホーム建物内の交流スペースも活用しながら、地域包括支援センターと連携した取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通じて、各職員が身体拘束について学んでいる	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、フロー内を利用者が自由に移動できるように見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内出血等は事故報告にあげ検証と防止策に取り組んでいる研修を通じて学習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について実践する機会がないため、今後知識として学ぶ必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	CM、管理者などが窓口となり家族に説明、理解して頂き入所して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見は来所時やご意見用紙を通じて聞き取り、フロア共有し家族の要望をふまえながら支援している	現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、家族との面会を可能にする等、可能な範囲での交流が行われている。家族からの要望等は管理者が受け、運営法人に報告している。また、定期的なホーム便りには、利用者毎の手紙の作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議を行う中で職員の意見、施設の運営に関して意見を聞き反映している	毎月のユニット会議や日常的な申し送り等を通じて、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。管理者による職員面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	随時面談を行い、職員の現状把握、やりがいなど確認し、施設の目指すべき方向性を明確にし、協力して行えるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修、勉強会には体制を整えながら積極的に受けるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナの為他部署との交流は少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前から確認しケアプランに反映させている。傾聴し本人に寄り添った介護を行うよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に確認しケアプランに反映させている。家族の意向については、フロア内で共有しケアに反映させている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の意見を重視し本人の状況に合わせた介護サービスが提供出来る様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する側、される側という考えで支援しないように指導しているが、職員によっては意識の浸透が十分でないこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	変化時には電話連絡をしたり、オンライン面会や手紙などで本人の状況をつたえたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の知り合いの方などからの問い合わせの際はご家族了解のもと本人と関われるように支援している	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者中には、行きつけの美容院を継続する等、関係継続につながる支援が行われている。家族との外出についても、身内の方の葬儀にホームから出かける等、可能な範囲で交流する機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者の特徴を把握し、席を変えたり、レクリエーションを行いながら他者同士の関係性をふかめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も必要に応じて相談やアドバイスなど行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行動、要望などを把握しカンファレンスで話し合い、支援している。困難な場合は家族にも意見を聞きながら支援している	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等を把握し、職員間での共有が行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、定期的なアセスメントの実施につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の情報を職員が共有し支援しているが、集団生活のため本人の望む、生活が一人一人送れているとは言えない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンス、申し送りを通じて身体変化、現状を常に把握し情報共有し支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議、カンファレンスなどで話し合っているが本人がよりよく暮らすための見極めは出来ていないこともある	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、介護計画に関する日常的な職員間でのチェックを行いながら、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録がやや単調であり、変化がなければ記録だけでは掘り下げる事が難しい見直しはカンファレンスだけに頼ってしまっていることが多い		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の要望などの合わせてサービスが提供できるように随時努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握は各職員あまり理解できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医との連携を図りながら、家族、本人が安心できるよう必要時受診している 受診の前後は家族への説明を十分に行うようにしている	運営母体が医療機関であり、関連の医療機関がホームの近隣にあることで、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われている。日常的にもホームに看護師が勤務しており、利用者の医療面での支援や協力医との情報交換等につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	いつもと違う様子を共有し、必要時往診医に報告し、対処している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に連絡を入れながら、状況確認し本人がスムーズに再入所できるように病院との情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	段階的に家族には状況を報告し、家族の意向を確認しながら本人、家族が安心して支援を受けられるように努めている	身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、協力医や看護師とも医療面での連携を深めながら、看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応については定期的には行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練については定期的に行っている	年2回の避難訓練の際には、夜間想定訓練や通報装置の確認も行われている。併設事業所との合同で訓練を実施しており、水害想定訓練も実施している。また、水や食料等の備蓄品については、併設事業所内に確保している。	感染症問題が長期化していることで、地域の方との協力関係づくりが中断している状況でもある。今後の感染症の状況をみながら、非常災害時の協力関係の取り組みの再開にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	特にトイレ、入浴の際はプライバシーに留意している。言葉使いなども相手が不快になるような声かけは行わないよう努めている	基本理念にも利用者を尊重した対応を行う内容が掲げられている他にも、運営法人の「クレド」にも職員の行動基準が掲げられている。また、職員の接遇にもつながる研修も行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話をゆっくりしっかり傾聴し、話の途中で他の事を行ったりしないように心かけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	どうしたら楽しくレクリエーションなどに参加してもらえるかなど考え本人の気持ちを優先できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時の整容、口腔ケア、季節にあった衣類の選択が出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みの反映までには至っていない 一緒に準備や片づけは利用者の状況を見て行うように指導しているが、すべてが行えていない	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われており、ムース食等の利用者の身体状態に配慮した食事形態の対応も行われている。ホームで季節等にも合わせた食事レクの取り組みも行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嗜好などに配慮し、形態などを見極め安全に食事が出来るように配慮している。水分についてもお茶だけでなく、本人の嗜好に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施し、清潔の保持に努めている。訪問歯科とも連携しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の自立に向けた支援は行っていない。排泄時のサインなどを見逃さず、トイレで出来るように観察している	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報の共有を行いながら、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に、日中と夜間でオムツ類を使い分ける等、排泄状態の維持、改善につなげている。排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動、水分等、色々行っているが最終的には、下剤などに頼ってしまうことが多い		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	最低ラインは決めているが、拒否などがあれば翌日などに入浴している	利用者が週2回を基本に入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。浴槽が特殊浴槽であることで、身体状態が重い方も浴槽に入ることができる。また、炭酸泉の設置も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の入眠状況、昼間の活動状況など24時間で利用者を観る事がやや乏しいので、指導が必要		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更の際は、実施前後の変化について観察できる職員はいるが整理が出来ないことが多い		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナになり施設内でのレクリエーションがやや乏しいように思う。気分転換出来るために職員がもう少し考える必要がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出はコロナのため行っていないが、散歩などは行っている	現状、利用者の外出が困難な状況が続いているが、駐車場が広い利点も活かしながら、利用者の散歩の機会にもつながっている。また、感染症の状況をみながら、季節等にも合わせた花見に出かける等、現状で可能な範囲で外出の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	法人として金銭の持ち込みは遠慮していただいております、必要に応じて家族様にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話は持ち込みが可能なので、要望があれば利用してもらっている 家族との電話、手紙などの支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感が味わえるよう、貼り絵、季節のものをかざったり、一緒に作成している。安全に過ごせるように環境に配慮している	ホーム内は広めの空間が確保されていることで、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、床をカーペット敷きにしたり、利用者の作品を掲示する等、落ち着いた雰囲気がつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファなどで他の入居者と気軽に話ができるようになっていたり、席の配置も随時検討している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談の上、使い慣れた家具などを使用し、本人が落ち着いて過ごせるように努力している	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われている。また、居室内のベッドが備え付けとなっていることで、全員の方がベッドで生活しているが、床がカーペット敷きであることで、ベッド以外の生活にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室などわかるように張り紙をする等して、動きやすい生活空間の提供をしている		